ＦＦぽいの？

そうめん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＦＦぽいの？

【Ｎコード】
Ｎ９２２４Ｚ

【作者名】
そうめん

【あらすじ】
ＦＦ１１大好きな子供？の転生ものです
一応ウィンダスミッション２－３までは書いてみたいです
誰かＦＦ１１知ってる方でネタあったら教えてください（汗）

第一話（前書き）

文章短いです

第一話

『ドドドド＝！！！』
タルタルが必死の形相で走っている。後ろを振り向けば一人のミスラの後ろに大量のヤグードが追いかけてくる
「リナさん！！何なんですか！！このヤグード達は！！！」
「う～ん？私のお友達だよ？ｗリエちゃんｗｗ」
一生懸命逃げる私の横に並び　まるでスッテップを踏むかのような陽気な感じで走るミスラ
後ろのヤグードが居なければ　とても楽しげに走ってる雰囲気である
「絶対にヤグードには　ちょっかい出さない！　って約束でギデアスに食料袋回収のクエスト受けたの忘れたんじゃないでしょうね！！！！」
「もちろん！！覚えてるとも！！」
「じゃあ！！！なんで　石つぶて　をヤグードに投げたんですか！！？？」
「にゅ～～・・石つぶて　が手元にあって、目の前にヤグード居たらさぁ？普通投げたくなるじゃん？？」
「・・・・・・・・」
「それに！リエちゃん！！これはちょっかいじゃなくて、攻撃と言うんだよｗｗｗ」
ステップを踏みながら走っていたのがいつの間にか舞でも舞うように走っていた
「ふざけんな！！余計に性質が悪いわ！！！！！！」
今日もウィンダス地方に一人のタルタルの叫び声が響いた

第二話（前書き）

また二話がプロローグぽい

第二話

いつものように　帰宅して一分でゲーム機の前に座り
いつものように　ＦＦ１１を起動したまでは覚えている
気がついたら　ヴァナディール　ウィンダス連邦　一人のタルタルに生まれ変わっていた
やったぜ！！憧れのゲームの世界に来れた！！！と嬉しく、ゲームで憧れていた冒険者になるために勉学に励んだ

憧れの冒険者になって半年が経過していた
冒険者になって一番最初に驚いたのが　この世界がゲームの時とは内容が一部違うことだった
冒険者ギルドが存在し、ＳＳ　Ｓ　Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ　Ｅ　Ｆ　のランクが在ったからだ
Ｆは一生町から出なければランクＦのままだ
一人前の冒険者と言われているのがランクＤだ

当時の私は半年でＦからランクをＥに上がっていて天狗になっていたのかも知れない
ＦからランクＥに上がるには普通は一年から二年かかると言われていたからである
いつものように私は冒険者ギルドでクエストの依頼掲示板を見てどの依頼を受けるか悩んでいた
ふと横を見ると一人のミスラが「にゅ～困ったにょ」とブツブツと呟いていた
私はミスラを一目見て　初心者だと思った
そのミスラは一般に安価で出回っている種族装備をして腰にはオニオンソードを付けていたからである
冒険者ギルドで登録すると最初に選んだ職業によってギルドからオ

ニオン系の武器を一点無料で提供される
何でできているのか？私も詳しくは知らないが　安い材料で丈夫で軽く初心者が使うには適しているらしい
オニオン系武器＋種族装備はまさに初心者装備の王道だ
私だって最初の頃はオニオン系武器＋種族装備だったのだから間違いない！

憧れの冒険者になりたての私はこの世界とゲームの世界の冒険者はギルドの存在位しか違いがないと勘違いしていた
一人の冒険者が新人冒険者の私をギルドで見かけて心配になり一週間一緒に行動をして冒険者のルールや注意事項などを教えてくれた
今思い出しても　あの人には感謝しきれない　もしもあの人と一緒に一週間過ごさなければ早死にしていたかランクEに上がるにはもう少し時間がかかっていたのかも知れない

ふとミスラを見ていると新人冒険者だった自分が重なって見える
私は　このミスラのことを無視できなくなっていた
まだ冒険者になって半年だけど　あの人のように　このミスラの助けになれるかも？と思い私は声をかけた

今思い返せばこのときから　私の冒険者としての冒険が始まったのかも知れない
もし今の私が、あの時の私に声をかけられるなら　絶対に！このミスラにかかわるな！！と叫んでいたのかも知れない

第三話（前書き）

ここで一区切り？

第三話

「はぁはぁ・・・・もうヤグードは追ってきてないですね？リナさん」
目に汗が入って痛む目をポケットに入れていた布切れで拭きながらリナを見た
一緒に走って？いたはずなのにリナは汗一つかかず残念そうな顔をして
「ここのヤグードは足が遅いにょ～～」
「・・・・・」
「おっし！！リエちゃん！！今度はもうちょっと奥まで行ってヤグードともう一回鬼ごっこしてこようか！！？？」
「・・・・（怒）」
「そうにゃ！！！それが面白いにゃぁぁぁ！！！！！！！！！」
「どこが！！！！面白いんじゃ！！！！！！」
私は顔一面に怒りを表しリナに怒鳴った
「さっきも言ったけど！食料袋回収の用事でギデアスに来ただけで！ヤグードと死と隣り合わせの鬼ごっこをしに来たんじゃなーーーーーーーーい！！！！」
「お～～そうだった！！！袋回収がメインだったたにょ！！」
リナは今思い出したと言わんばかりに目を丸くして　一人で「大変だにょー」と呟いていた

私は深くため息をついた、ギデアスであんなに多くのヤグードに追いかけられ逃げられたのは良かったけど、目的の食料袋が回収できていないのだ
あれだけの騒動だったのだ・・・すぐにギデアスに入るのは危険すぎる
だが、袋に入っている　とんでもない飲み物　をヤグードが飲む前

に回収しないとウィンダスとヤグードとの友好関係にヒビが入り国としても大きな問題になってくる
半人前冒険者に依頼するクエストにしては失敗した時のリスクが大きすぎる
まぁ・・紛れ込ませた本人は内密にこの事を処理したかったみたいだが下っ端の調理ギルドの人間では半人前冒険者に依頼する金額が精一杯なのだから仕方ない

また深くため息をついた私をリナが心配そうに見つめているのに気づいた
いけない！！私が失敗したときの場合を考えるんじゃなくて成功させることを考えなくてはリナさんも不安を感じてしまう
自分の両手を強く握り締めて気合を込めてリナを見て頷くように
「大丈夫だよリナさん。この依頼無事に成功させましょうね！！」
「そうだにょ～、早くウィンダスに帰って依頼達成したほうがいいにょ！そろそろ暗くなってくるし！野宿イヤだし！」
「・・・・・・・」
「ほら！リエちゃん！！早くウィンダスに帰ろうにょｗｗｗ」
「あの？リナさん？？まだ袋の回収終わってないから依頼達成できてないんだよ？」
「んーーー？ウィンダスに行かないと依頼達成できないじゃん？ギデアスに行っても達成できないよ？リエちゃん？？？」
「え？いやだから袋の回収まだできてない・・・・・」
「袋なら鬼ごっこしてる間に回収したにょ」
「・・・・・・・・」
「さぁ！！ウィンダスに向けて出発進行だにょーーーーー！！！！！」
その後どうやってウィンダスまで戻ったかは記憶が無い

第三話（後書き）

続きは正月過ぎて暇になってから書く予定です？

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9224z/

ＦＦぽいの？

2011年12月28日23時06分発行